

Mother つうしん

2016年9月発行
No.32

MOTHERとは、Movement Organ Transplant Hyogo Emergency Rescueの頭文字をとったもので、『移植医療の理解促進と、臓器提供を待つ患者の願いを実現するため』に運動をすすめています。

改正法施行後、6年経過！ 臓器提供総数 伸び悩み変らず

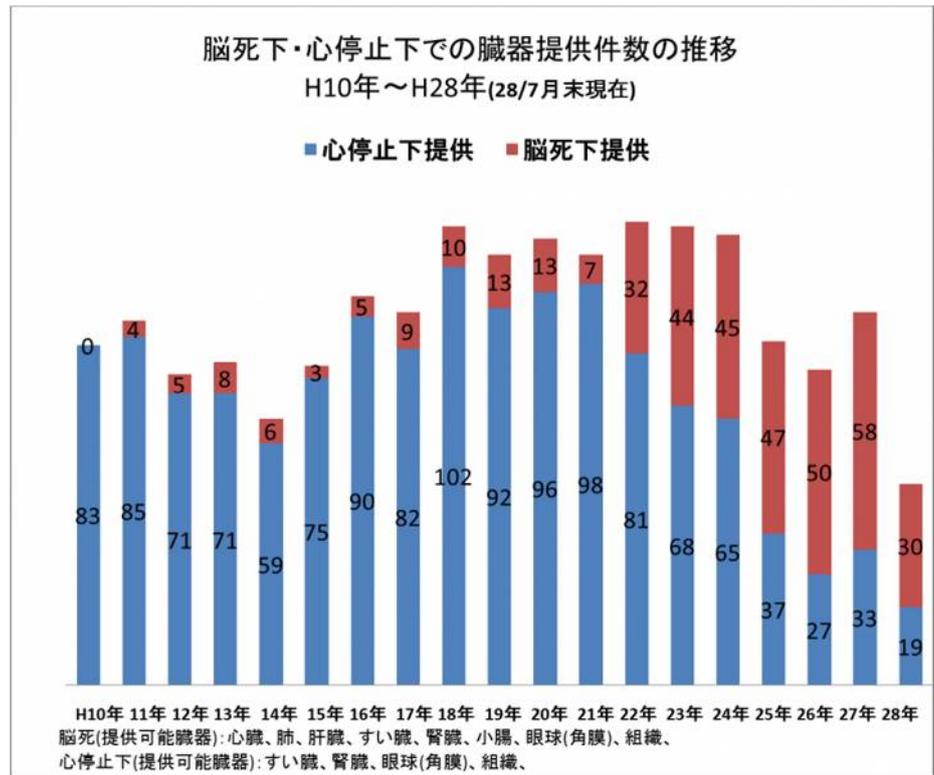
改正臓器移植法施行後、6年が経過、脳死下の臓器提供数は若干増えていますが、ここ数年、全般的に臓器提供総件数は伸び悩んでいます。(左図参照)特に、腎臓移植を希望し移植を待つ患者の待機年数は心停止下の提供減少により、待機期間が改正法施行前(15年→16年)より長くなり、改善されていません。わが国の臓器提供数は諸外国と比べ、依然として極端に少ないと言わざるを得ない状況です。

改正法施行後の脳死下の提供者数の推移について、

一昨年、吉開俊一先生(新小倉病院脳神経外科部長)が、当協議会の市民公開講座で述べられた、『全体的に臓器提供件数が大幅に増えた訳ではなく、家族の判断で提供が可能となった効果でもたらされたもの、法律の力で相対的に脳死下提供が増えたのであり、啓発により提供総数が増えたわけではない。わが国では臓器提供が少ないことについて、これまでの啓発活動が、臓器提供者や提供側施設の視点で提供の問題点を説いて来なかったこと、そしてメディアにより広められた誤った情報を逐一訂正して来なかったことにある』と、全般的にその状況は変わっていない様に考えます。

更に、先生は『医療従事者を含む多くの市民は、脳死にならなければ臓器移植はできない、あるいは、脳死を人の死と思わなければ臓器移植はできないと誤解し、脳死への抵抗感から、臓器移植に関する興味や知識の発展を停止させている。これでは心停止下の腎臓提供が増えるはずもなく、移植についての正しい知識が広まるはずもない』とも言われていました。

移植の普及・啓発を掲げる私たちの協議会では、改正法第2条(基本的理念)には、『生存中有していた意思は尊重されなければならない』と謳われています。ドナーの生前「臓器を提供したい」という意思が生かされる様に、今後も訴えていかなければならないと考えます。移植医療がドナーとその家族の尊い意思に基づいて実施される医療であることから、私たちの協議会では、本年11月20日(日)の市民公開講座では、「ドナー家族の想い、『妻が、今



も誰かの人生を支えている』など、ドナーとドナー家族に関する問題に正面から取り組んでいます。(文責：川瀬喬)

活動報告

臓器移植を考える市民公開講座

開催日：2016. 4. 17 (日)、

講師：仲谷 達也先生

(なかに・たつや)

(大阪市立泌尿器科病態学教授)

講演：『臓器提供者の生前の
意思を生かすには?』

会場：神戸市勤労会館 2F、

講師は『直近の臓器移植の意識調査(内閣府)によると、臓器提供では「ドナーが生前意思表示していた場合には家族の87%がその意思を尊重する」といっている。改正法では、家族内で提供について話合うことが大切となっている。更に、ドナーの生前の意思を生かすには、並行して、わが国の移植医療のシステム上の問題として、日本救急医学会など関連3団体が改正法施行時(2010/7)に厚労省に提言した①法的脳死判定専門家支援チームの構築②診療報酬における脳死判定料の新設、③診療報酬を含めた脳死判定時の経済的補助、④院内Co.を含めた移植Co.の増員等の実現に努めることが臓器提供増加には不可欠、と指摘。先生は上記のシステム上の問題が未解決の現状で、ドナーの生前の意思を実現するには、ドナー家族側から主治医にドナーの提供の意思を伝えなければ、その実現が難しいとも述べられました。参加者44名、



2016.5.15(日) 第46回

“神戸まつり”に参加、場所：東遊園地、協議会2名参加、学生ボランティア7名参加(神戸山手大学学生)、

事前に学生全員に①「意思表示カード」の配布と②『輪投げ』を子供向けに提供することを伝え、進め方は学生たちに一任。

学生たちは①と②の二つの班に分かれ、終了時の午後2時半まで真面目にやってくれました。古くて新しい『輪投げ』が以外と子供たちには新鮮な印象を与えた様で、会場は最後まで親子づれで賑わうことが出来ました。



【出前授業】2016. 6. 22(水)、園田学園女子大学(成人保健)、2年生70名、
テーマ「私の移植体験」と「臓器移植の現状と課題」

出前授業では、昨年从高見敬一君に(次ページ写真)、自らの「腎臓移植の体験談」を話してもらいました。また、「わが国の移植の現状と課題」では川瀬が担当しました。「成人保健」を専攻している学生たちは、中・高の保健・体育教師を目指している学生が多く、中にはスポーツ・エリートもいて日頃のハードな練習でつい居眠りする者(学校公認)もいましたが、その他の学生たちは最後まで熱心に耳を傾けてくれました。(写真3ページ右上：講義中の高見敬一氏)

“GIFT OF LIFE 移植を受けた 子供たちの作品展”を開催、 2016. 8.19(金)～22(月)、 “西区民センター・ギャラリー”

本年、8月19日(金)～22日(月)の期間で、“GIFT OF LIFE 移植を受けた子供たちの作品展”を神戸市西区民センター1階のギャラリー(地下鉄西神中央駅近く)で移植に対する理解を深めようと開催しました。友人とサッカーをしたり、公園で遊んだりする絵画など日常を生きる喜びやドナーへの感謝を表わした作品に、若い年代の家族連れが見入っていました。(作品展の会場：写真右下)



第14回ドナー慰霊祭、 2016.5.29(日)場所：覚王山(名古屋) 協議会から参加3名、

【ドナー慰霊祭に参加して】名古屋の日泰寺で開催されたドナー慰霊祭に川瀬事務局長と参加した。2011年11月に献腎移植の機会を頂き、おかげで25年の透析生活から離脱することが出来、サンクスレターを書かせて頂いたが、ドナー慰霊祭自体参加するのが初めてでした。ドナーのご家族方にとどのように接すべき



なのか不安で緊張しながらの参加だった。ところで、日泰寺とは変わった名前だと思ったら、タイ王国から寄贈された仏舎利を安置するため創建された超宗派の寺院とのこと。どの宗派にも属さないという意味で開催地としては配慮のあるいい選定だと思った。お寺に着くと、受付があり、移植者、医療関係者、ドナーご家族の方々と分かれていた。おそらく参加者は、200名近くおられたのではないかなと思う。順にお堂に入り席に着くと、前の列には、遺影のお写真を席に置かれている方がおられた。しばらくして、20名強もの僧が現れ法要が始まった。個々の僧から発せられる読経がやがて一つにまとまり、重さを増しているようにズシーンと体に響いてきた。それはまるで私の声の代わりにドナーの方に対する感謝の思いを発しているかのように思えた。

厳かな雰囲気にも包まれた中、移植者を代表して下野日移協理事長によるご焼香があった。続いて移植者の感謝の言葉が伝えられた。この時、列席から涙ぐむ声も聞こえてきた。そして、最後に出席者全員によるご焼香があった。今回は諸事情でドナーご家族の方のお話が無くなったそうだが、遺影をお持ちのご家族を目にして、ドナーとご家族の提供の決心の重さが、より現実を感じられ、敬意の気持ちを表せずにはいられなかった。改めて頂いた命、ドナーやご家族を思い、気持ちを新たにできる機会になった。

今回、名古屋に住んでいる友人に、名古屋に行く用事があるので午後にお会いと約束をした時、時間を決める段になって、「実は朝からこんな行事があってこれに参加するんだ」と、慰霊祭のことを告げたところ「僕も参加させてもらえるんだったら参加したい」と言ってくれた。移植関係とは無縁の健常者の友人が即答でこのように言ってくれたのはうれしかった。一緒に参加した慰霊祭の後、「はじめてのことで、いろいろ考えさせられた。でも僕との関係が無かったら、知る機会も無かった」と言っていた。(文：高見敬一)

各 位

訃報のお知らせ

当協議会会長の都倉邦明氏はかねてより入院加療中でしたが、去る8月23日(火)76歳の生涯を閉じられました。

ここに故人が生前中賜りましたご厚誼に対し、副会長、並びに協議会役員一同よりこころより感謝申し上げますとともにご冥福をお祈り申し上げます。

なお、葬儀につきましては、故人の遺志に従い近親者のみにて行われ、当協議会より木村勝(副会長)と川瀬喬(事務局長)が協議会を代表して告別式に参列しました。

皆様方にはご連絡を差し上げませんでした。会員および関係者の皆様におかれましてはご了承下さいます様お願いいたします。

兵庫県臓器移植推進協議会

副 会 長 木 村 勝

役 員 一 同

故都倉邦明会長を偲んで

当協議会会長の都倉邦明さんのご逝去に対し、あらためて、奥様はじめご親族の皆様方にごころからお悔やみ申し上げます。5年前、故人が透析に入られた折から、その後、入退院を重ねる度に、奥様から病状を伺っておりました。生前、木村副会長と長田のご自宅にお見舞いに伺った折には、故人も回復を信じて療養に専念させていただきだけに残念でなりません。

故人の人柄は誰もが認める温厚で、人あたりも柔らかく、会長に適した方でした。故人と小生とは、心臓と腎臓の違いこそあれ、同じ移植者・退職した者同士だったこともあり、協議会の活動で大学の出前授業やイベント参加などの活動でよくご一緒させて頂きました。

通夜の席上、奥様から『故人がわが国では数少ない長期の心臓移植者(1996年2月に米国で移植、本年2月で満20年)だったことから、故人の意思により後に続く方々の為、逝去後、遺体の解剖と移植した心臓を国立循環器病研究センターに献心された』との話がありましたので報告します。

川瀬 喬

ご寄附を頂戴しました。誠に有難うございました。臓器移植の普及・啓発推進のために大切にに使わせて頂きます。

○兵庫腎疾患対策協会様

○敬愛街づくり財団様

○イレブンミュージック様

協議会の活動を進めるために会費の納入にご協力を！

当協議会の活動へのご支援を有難うございます。会費の納入をお願いします。会員の種別は以下の通りです。

正会員：2,000円、賛助個人会員：1,000円、賛助団体会員：10,000円(一口)

郵便振替用紙に、必要記載事項(氏名、住所、電話番号、会員の種別)をご記入して下さい。

口座名：兵庫県臓器移植推進協議会 口座番号： 金融機関名：ゆうちょ銀行



【お問い合わせ先】

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目1-21 福建会館ビル6階

NPO 法人兵庫県腎友会内 兵庫県臓器移植推進協議会

TEL : 078-371-4382 FAX : 078-371-8840

URL : <http://motherho.server-shared.com>

